

全国学力・学習状況調査等の結果と指導改善内容について

4月に6年生を対象として、全国学力・学習状況調査が実施されました。本年度は、学力調査として国語・算数・理科の3教科、学習状況調査として例年通り児童質問紙による調査が行われ、7月末に結果が公表されました。また、4・5年生では「みえスタディチェック」、3年生では「標準学力検査(NRT)」を実施しました。対象学年の児童には、個人票(調査結果)を渡しました。それを見て、自分の強みを伸ばすとともに、苦手な所を克服できるように取り組んでほしいと思います。学校でも結果を分析し、今後の取組に活かしていきます。

ここでは、学校全体の結果の分析(強み⇒◎、弱み⇒△)と、今後の取組をお知らせします。

全国学力・学習状況調査(6年)の結果より

国語と算数は、全国平均並みで、理科は、上回っている。全体的に学力の2極化が見られる。

【国語】

◎設問3-3「漢字を使って正しく書き直す」、設問1-2「話している相手の良さを認めながら聞くことの大切さを理解している」など、「基礎的・基本的な学習」は定着している。
△設問2-1「登場人物の行動や気持ちなどについて叙述を基にとらえる」、設問1-4「立場や意図を明確にして自分の考えをまとめる」など、「長文の読み取り」や「考えを書くこと」に課題がある。

【算数】

◎「数と計算」分野について、わり算で求めることができる理由の記述も含め、よく理解している。
△設問3-2「データの特徴をとらえて考察する」、設問3-3「グラフから必要な情報を読み取る」など、「データの活用」について課題がある。

【理科】

◎理科を「好き」と回答した児童は、全国平均を上回り、正答率の高さと一致している。
◎「水の三態」「鏡と日光の関係」などの学習内容は定着している。
△設問1-4・5「二次元表の読み取り」や設問3-2「いくつかの情報に注目し整理して考える」に課題がある。

みえスタディ・チェック(4・5年)の結果より

国語・算数・理科(5年のみ)ともに、市平均正答率を下回っている。また、学力の2極化が見られる。

【国語】

≪4年≫

◎漢字を正しく書いている。

≪4・5年≫

△段落の相互関係を理解し叙述に基づき考える、登場人物の心情などを意識して読むなどの読解力に課題がある。

△長文の中から指示語の示す内容をとらえたり、主語述語を取り出したりすることに課題がある。

【算数】

≪4年≫

◎グラフの1目盛りの数の違いに着目し、その理由を説明することもできているが、少し、言葉での説明の不十分さが見られた。

△分数の意味、二桁のかけ算など、「数と計算」分野に課題がある。

≪5年≫

◎概数やわり算についてよく理解している。

△図形の面積の求め方の式は書けるが、説明を記述することに課題がある。

【理科】

◎「生命」分野はよく理解している。

△電流とモーターの関係の理解に課題がある。

児童・生徒質問紙(6年)からみられる特徴について(学習、生活の状況に関して)

◎「毎日、朝食を食べている。」「就寝・起床時刻が決まっている。」「携帯電話・スマートフォンの使い方を守る。」などの回答が全国平均を上回り、良好な生活を過ごしている子が多いことがわかる。

◎「いじめは、どんな理由があってもいけない。」と回答した子が100%である。また、「人が困っているときは、進んで助けている。」「学校は楽しい。」「友達と協力するのは楽しい。」という回答が全国平均を上回っている。

◎「地域行事に良く参加している。」という回答が、全国平均を大きく上回っており、「ふれあいパスポート」の取組をはじめとする、子どもたちを地域で育てる土壌ができていくことがわかる。

△「自分には、よいところがある。」「将来の夢や目標を持っている。」という回答が、全国平均を下回っている。

△家庭学習時間(塾含む)について、約3割の子が、平日も休日も、1時間以上、2時間より少ないを回答し、次いで約3割の子が、30分以上、1時間より少ない(全国平均を上回っている)を回答している。2時間以上、3時間以上、4時間以上の回答が全国平均を下回っている。つまり、家庭学習時間が長い方ではないと言える。

調査結果をふまえた今後の取組について

1 指導の工夫・改善について

漢字や計算などの基礎的・基本的な学習の定着に向けた指導の重要性は変わりません。「強み」維持のため、今後も、朝の学習の時間を使った反復学習など継続して取り組みます。一方、「弱み」であった、「長文を読み取る」「論理的に書く・説明するために書く」といった力を子どもが身につけ伸ばしていくためには、普段から「読む」「書く」学習を積み重ねていく必要があります。単に「読む」「書く」練習をするのではなく、例えば、子どもが教科書の文章中にある文や言葉を根拠にして論理的に自分の考えを書いたり述べたりする授業～主体的で対話的な学び～が必要です。再度、教職員の研修を深め、子どもたちに力がつくよう取り組みます。

学力の2極化については、個に応じた指導・支援をしていけるよう丁寧に子どもたちにかかわって対応をしていきます。4年生以上の算数では引き続き習熟度別少人数授業を行っていきます。

また、「子どもが自ら学習を調整する力」(「個別最適な学び」)を育てることも大事だと言われています。例えば、疑問に思ったら自分ですぐに調べる(インターネット)、自分の伝えたい方法で発表原稿の準備をする(写真、イラスト、動画)、自分で決めた課題に取り組む(苦手を克服、発展問題に挑戦する:ドリルパーク)などです。特にタブレットを使ってこのような学習ができます。家庭学習でも活かしてほしいと思います。

これまでの調査から、子どもたちの自己有用感・自尊感情が高いと、学力向上につながるということがわかっています。とても頑張ったときやその結果だけ特別褒めるだけではなく、「今のいいね。」のように、今できていることを認める、「あなたのいいところは、〇〇だよ。」「〇〇してくれてありがとう。」などをこまめに伝えていきたいと思います。その上で、「がんばってよかった。」「やればできる。」という達成感を味わえるような場面をつくっていきます。

2 家庭学習について

学習の定着のためには、家庭学習の習慣化はとても大切です。「宿題」として提示する学習の内容や質、評価について定期的に検証していきます。家庭学習は、家庭との連携も必要になります。家庭学習をする時間や場所などを決めて取り組むことや意欲喚起につながるような声掛けなど、ご支援ご協力をお願いします。